第２学年〇組　道徳科学習指導案

１　主題名　弱さと向き合い生きる　　内容項目［D　よりよく生きる喜び］

２　ねらい　主人公の心の葛藤を考える活動を通して、自分の中にある弱さや醜さと向き合いながら強く生きようとする人間の姿のよさに気付き、よりよく生きていこうとする実践意欲を養う。

教材名　「足袋の季節」　　（出典　「あすを生きる２」　日本文教出版）

３　主題設定の理由

⑴　ねらいや指導内容について

欠点や弱点のない人間はおらず、ありのままの人間というものは決して完全ではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。してはいけないと知りつつも意地悪なことをしてしまったり、自分の利益を最優先にして、他人の不利益を無視して行動してしまったりすることもある。パスカルの言葉で「人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」とある通り、人間ははかなく弱い存在である。しかし総体として弱さをもってはいるが、それを乗り越え、次に向かっていけるところに人間の素晴らしさがある。自己の良心に従って人間性にはずれず生きようとする心をもち、自己の弱さや醜さに向き合うことができなければ、人間として生きる喜びを味わうことはできない。自己の弱さや醜さと向き合い、崇高な人生を目指して人間として、他者とともに生きていくことで、深い喜びを味わえるのである。

指導に当たっては、自分だけが弱いのではないことに気付かせることが大切である。人間の弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さを対比したりするだけで終わらせてはならない。自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるというところにまで気付かせていきたい。人間がもつ強さや気高さについて十分理解できるようにすることも大切である。自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信のもと、自己肯定感を高め、よりよく生きる喜びを見出せるようにしていきたい。

⑵　これまでの学習状況及び生徒の実態について

小学校高学年で「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること」という内容項目が改訂により初めて設置されたため、小学校では６年時のみ学んできている。また中学１年生では「挫折から希望へ」を教材として、「挫折を乗り越える」ことを学習してきた。

本学級の生徒は自分の弱さを受け止めるあまり、「どうせ自分は…」「ダメな自分が嫌だ」と自己肯定感が低い生徒が多い。弱さや醜さは人間誰にでもあることに気付かせ、人間にはそれを乗り越えることのできる強さがあることにも気付かせていく必要がある。道徳アンケートの結果からも、「自分には良いところがある」という自己肯定感に関わる肯定的な意見が５０％であった。自分の弱いところや醜いところに目が行きがちであることが結果から伺える。その弱さや醜さと向き合い、乗り越えようと生きていくことに人間として生きる喜びがあることに気付かせていきたい。また、「何かしてしまっても謝れば済む」と考えている生徒も少なくない。本教材「足袋の季節」の主人公のように謝る機会さえ失ってしまうことは今後の人生でも起こりうる。後悔のない人生を送っていくためにも、自分の弱さや失敗を背負いながらも、前向きに考え、人間としての誇りある生き方に近づこうとする意欲を高めていきたい。

⑶　教材の特質や活用方法について

本教材は１９２０年代の話であり、極貧の主人公が同様に貧しい暮らしをするおばあさんから釣銭をごまかして多くもらってしまう話である。この主人公「私」は就職後、おばあさんに許しを請いに行くが、すでにおばあさんは亡くなっていた。許しを得られず後悔の念を深くしていく。しかし「私」は罪と後悔を糧に、「おばあさんにもらった心」を前向きな人生に生かし、他者への償いの心にまで高めて人生を歩んでいる。この「私」の真摯な生き方に深く共感させていきたい。人間は誰にでも弱さや醜さがあることを自覚させ、強く気高く、自分を人格的に高めていこうとする生き方への実践意欲を高めていきたい。そのため、以下の場面を基に話し合うことにする。

①おばあさんに「５０銭玉だったね。」と聞かれて「私」が頷いた場面

「私」が冬の寒さと貧しさで苦しい生活をしていることに気付かせた上で、５０銭あれば足袋が買えると

いう甘い考えでおばあさんからお釣りをごまかしてしまった心の弱さに共感させていく。しかし嘘をつきながらも後悔の念も存在していただろうということにも気付かせ、弱い自分と良心との呵責に悩む「私」の心の葛藤にふれることで、どんな人間にも弱さや醜さ、そしてよりよく生きたいという思いがあることに気付かせていく。

②おばあさんがすでに亡くなっていることを知り、果物かごを川に落とした場面。

「私」は長年の後悔への許しを請うため、おばあさんの元を訪れる。しかし、すでにおばあさんが亡くなっていたことを知らされ、一生許しが得られない現実を知る。果物かごを川に落とすロールプレイをさせることで、一層強くなった後悔と自責の念をより実感させたい。全員にロールプレイをさせることはできないが、数名の生徒に行わせ、どんな心情で果物かごを落としたのかを聞いていく。自分へのいらだちや後悔、非情な世の中への強い思いで投げつけるように落とす生徒や、おばあさんへの思いからそっと川に流すように落とす生徒がいると考えられる。「私」のどうしようもない後悔に気付かせていきたい。

③「おばあさんがくれた心を今度は私が誰かに差し上げなければならない」との記述のある場面。

①②を通して人間の弱さや醜さ、そして強い後悔の念を押さえた上で、そこで立ち止まることなく、「私」がこの経験で感じた自責の念をプラスの生き方へと生かしてきたことに気付かせたい。人間は弱く、失敗をおかしてしまう生き物である。しかし、自分自身をごまかすのではなく、強く気高く生きることの価値を、生徒一人一人の心へと刻ませていきたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4　ねらいとする道徳的価値について考えを深める指導の工夫

⑴　導入　・嘘についてのアンケート結果を共有することで、人間の弱さを押さえる。

⑵　展開　・多様な意見を出させるための発問を工夫する。
・じっくりと自分と向き合える時間を確保するため、やや内側を向いた座席での話合いとする。
・ロールプレイを通し、「私」の後悔と自責の念を体感的・客観的に捉えさせる。
・テーマを分割して提示することで、生徒が主体的に価値理解を深められるようにする。
・「足袋の季節」を通して、人間とはどんな生きものなのかを考えて言葉にまとめさせることで、人
間には弱さや醜さを持ち合わせながらも乗り越えようとする気高さがあるという価値理解・人間理解を深めさせる。
・内省化をさせる際には教材と今までの自分とを比較しながら内省化を行わせる。

⑶　終末　・ソクラテスの格言を紹介することで、弱さや醜さの強調に終わらせず、自分を奮い立たせることで目指す生き方に近づいていけることに気付かせる。

5　学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　「嘘」についてのアンケート結果を知る。 ・とっさに嘘をついたことがあるか？ ・その嘘の理由 ・その後の対応	・みんなも嘘をつくんだな。 ・意外と人のための嘘が多い。 ・嘘をついてつきっぱなしの人もいるのはどうか…。	・人間だれしもとっさの嘘をついてしまう弱さがあることを押さえる。 ・嘘をついた後の対応は大きく分かれることにも気付かせる。
展開	2　教材「足袋の季節」を聞き、話し合う。 ⑴おばあさんに「５０銭玉だったね。」と聞かれて「うん。」と頷いた時の「私」はどんな気持ちだっただろう。	・これでやっと足袋が買える。 ・おばあさんが勝手に間違えたんだから自分は悪くない。 ・おばあさん、ごめんなさい。 ・本当のことを言わなければ…でも足袋も欲しい。	・今日のテーマ①「人間とは」を提示する。 ・お金をごまかした「私」の弱さや醜さに気付かせる。 ・つい言ってしまった嘘に後悔する心と自分の甘さに負けてしまう心の葛藤を押さえる。

	⑵果物かごを川に落としたときの「私」は何を考えていたのだろう。（動作化）	川に投げつけるように落とす ・謝罪できなくて悔しい。 ・なんということをしてしまったんだろう。 ・なんで死んでしまったんだ…。 そっと川に流すように落とす ・ごめんなさい。 ・どうか許してください。 ・ご冥福を祈っています。 ・次は私が他の人に優しくしていきます。	・発問の後、生徒を２～３名指名して、実際に果物かごを川に落とす場面を実演させる。 ・面白く楽しい雰囲気にならないよう、声掛けを適宜行う。 ・動作化後、見ていた生徒に、どんな思いだったか考えさせる。その後に動作化をした本人の思いも確認していく。
	⑶「私」はどうして「おばあさんがくれた心を今度は私が誰かに差し上げなければならない」と思ったのだろう。	・おばあさんがくれた優しさをつなげることがせめてもの償いになると思ったから。 ・おばあさんが亡くなっていたことで立ち止まるのではなく、次に進んでいこうと思ったから。 ・おばあさんに謝罪することは叶わないから、せめて今度は他の人のためになることをしたい。	・自分の過ちに後悔を重ねていた中、謝罪もできずに辛かった「私」が、今後の人生を見据えて考えているところを押さえさせる。 ・後悔をそのままにせず、立ち上がることのできる人間の素晴らしさに気付かせる。
	【補助発問】 ・おばあさんはどんな思いを込めて「ふんばりなさいよ」と言ったのだろう？	・相手を思いやる心 ・辛くても踏ん張る心	・おばあさんの「私」に対してここから強く生きて欲しい」という思いに気付かせる。
	・自分なら「私」のように立ち上がろうとすることができるだろうか。	・後悔するだけで終わってしまうかもしれない。 ・なかなか次へ進めないかも。 ・立ち止まることがおばあさんの願いではないはずだから、立ち上がると思う。	
	⑷「足袋の季節」からあなたは人間に何を感じましたか。～にあてはまるものを考えてみよう。（①か②を選んで考えてみよう） ①「人間とは～。 だからこそ、～ならない。」 ②「人間とは～。 しかし～できる。」 （中心発問）	人間とは ・後悔する生き物である。 ・自分に甘いものである。 ・過ちをおかすものである。 ・未完成なものである。 ・失敗や後悔を繰り返す。 ①だからこそ、 ・後悔しないように生きなければならない。 ・失敗を乗り越えなければならない。 ②しかし、 ・過ちを乗り越えることができる。 ・失敗を次に生かすこともできる。 ・過ちに気付けるから、その後よりよ	・１人でじっくりと人間について考える時間を十分にとり、自分と見つめ合えるように集中できる雰囲気を作り出す。 ・穴埋めで考えさせる。 ・個で考えた後、発表させる。 ・発表した後、全体で切り返しの発問を用いて議論を行う。 ☆人間には弱さや醜さがあるが、自分と向き合うことで、乗り越えようとする強さもあることを多面的・多角的に考えようとしている。（発言・プリント） ・今日のテーマ②「弱さと向き合い

	3　自己を見つめる。 　あなたはこれまで自分の弱さと向き合い、乗り越えながら生きることができていましたか？できていなかったのなら、それはなぜだと思いますか？今日の授業を終えて考えたことを書こう。	く生きる方法を考えられる。 ・自分の弱さに劣等感を感じるだけで、そこで立ち止まっていた。その先に生かそうという考えが足りなかったので、これからは弱さを克服できる人間になりたい。	生きる」を提示する。 ・ワークシートに記述させ、内省化の時間を十分に確保する。 ☆これまでの自分自身を振り返り、弱さを乗り越えることに関して、自分自身がどう向き合ってきたかを考えている。 （ワークシート）
終末	4　偉人の言葉を知る。 「よりよく生きる道を探し続けることが、最高の人生を生きることだ（ソクラテス）」		・人生良いことも悪いこともあるけれど、そこを乗り越えてこそ、人生の面白みがあり、人として生きることの醍醐味があることを伝える。

6　他の教育活動等との関連

事前指導	弱い自分を実感した経験をアンケートの中で想起する。
事後指導	生徒の書いたワークシートの抜粋と板書を、道徳コーナーに掲示する。
家庭との連携	道徳通信に授業の様子を載せて発行する。
特別活動との連携	定期テストや行事で自分に負けそうになったときにも、弱さや甘さに負けず、乗り越えて生きていけるように声かけをする。
国語科	中学校１年生で学んだ「少年の日の思い出」で学んだことを想起させる。

7　評価

⑴　評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・人間には弱さや醜さがあるが、それを乗り越えようとする強さもあることを様々な側面から考えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・弱さを乗り越えることに関して、自分自身がどう向き合ってきたかを考えている。

⑵　評価の観点

【教師の指導方法に関する工夫】

・弱さと向き合い生きていく人間の姿のよさに共感できる発問構成であったか。
・話合いではコーディネート役として効果的に働き、生徒が考えを深めることができたか。
・内省化の時間を十分に確保することができたか。

8　板書計画

テ　弱さと向き合い生きる
教　「足袋の季節」

私

「５０銭玉だったね」と聞かれて頷いたときの私

おばあさん

・ごめんなさい。
・本当のこと言わなくちゃ
・これで足袋が買える

果物かごを川に落とした時の私

・くそー
・なぜ死んでしまったんだ
・ごめんなさい
・今度は私が他の人に優しさを伝えます。

「おばあさんがくれた心を、今度は私が誰かに差し上げなければならない。」

・せめてもの償い。
・次に進んでいこう。
・今度はまっとうな人生を歩みたい。

人間とは、

・後悔する生き物である。
・自分に甘いものである。
・過ちをおかすものである。
・未完成なものである。
・はかないものである。

だからこそ、

・後悔しないように生きなければならない。
・失敗を乗り越えなければならない。

しかし、

・過ちを乗り越えることができる。

あなたはこれまで自分の弱さと向き合い、乗り越えながら生きることができていましたか？できていなかったのなら、それはなぜですか？

9　授業の様子

二年三組
ほらね
夢
笑顔で
深めよう
十月二十七日(金)
山口さん
「弱さと向き合い生きる
足袋の季節」